

地域母子保健福祉情報紙 No.282

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

健やか親子 21 全国大会によせて

“After コロナ” の親子支援

令和 5 年度「健やか親子 21 全国大会（母子保健家族計画全国大会）」が皆様をお迎えして開催できますことに、ここから喜び申し上げます。待ち望んだ対面での参加で、みなさまの顔を拝見することを楽しみにしています。

令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は感染症法の 5 類となり、患者数は日々ではなく定点医療機関からの 1 週間ごとの報告に移行しました。しかし、まったく不安がなくなったわけではなく、多くの新規患者が発生しているとのこと。人類と感染症との

戦いは何度も繰り返されており、私たちも“With コロナ”から、コロナとの戦いを踏まえた“After コロナ”に生活が変わってきました。

乳児期の唾液接触と学齢期のアレルギーに関係！

“After コロナ”では、マスクの着用、手指の消毒は必須ではなく、個人の判断に任せられています。この個人の判断が感染症の感染力に対する知識だけでなく、結果として、親子の身体にどのような影響を与えるかまで考えなくてはなりません。

最近提供されたニュースに、「乳児期の唾液接触と学齢期の子どもたちのアレルギー発症」という英語の論文で、アジアで初めて日本人の学齢期の子どもとその親を対象として大規模な疫学調査を実施し、乳児期の食器共用による唾液接触は、学齢期の湿疹（アトピー性皮膚炎）

の発症リスクの低下と有意に関連していたと報告されました。親の口内細菌が子どもに伝播するため、口移し



佐藤拓代 会長

の食事提供など密な接触はいけないとされています。密でなくてもこの程度の接触なら、許されるのかもしれませんが。

子どもとの接触は唾液に触れるような濃厚な接触ではなく、「ほどほど」接触だと免疫等の機能に作用し結果的に疾患と闘う力を得ている可能性があります。

お節介の“ススメ”

裸のか弱い人類は太古から支え合って子育てをしてきました。肌のふれあい、息づかい、やさしい声でのねぎらいは、親子が未来に向かって歩む力となったことでしょう。

“with コロナ”を乗り越えた“After コロナ”だからこそ、ひとりぼっちにしない、自己責任にしない、お節介支援を行いたいものです。

公益社団法人 母子保健推進会議
会長 佐藤 拓代



昨年度の「健やか親子 21 全国大会」

今月のページ

健やか親子 21 全国大会によせて “After コロナ” の親子支援	1
48名と 3 団体の皆さまに心よりお祝い申し上げます	2 ~ 8
令和 5 年度「8020 の里賞（ロッセ賞）」受賞活動決まる！	9
紙上セミナー：8020 の里づくり「乳幼児の歯のおさらい」	10 ~ 11
ニューノーマル時代の寄り添い支援の在り方セミナー／編集帖	12

令和5年度「健やか親子21全国大会（母子保健家計計画全国大会）」において、地域で母子保健の向上のために、それぞれの専門性や立場で長年尽力され功績をあげられた方々に対して、その労苦に敬意と感謝の意を表すべく「公益社団法人母子保健推進会議会長表彰」をお受け取りいただくこととしている。

本稿では、表彰を受けられる個人48名と3団体の功績の一端を紹介する。なお、紙面の都合により以下のとおり省略する。昭和=S、平成=H、令和=R、母子保健推進員=母推。

*功績紹介にあたっては推薦依頼時に了承を得ています。

個人の部

【岩手県】市川淳子（釜石市母推） H9年より母推として活動。H29年より代表。保育士や主任児童委員を長年務めた経験を活かし状況に応じて地域に求められる活動を実施。東日本大震災時には、自らも被災しているにもかかわらず子育て世代が集える場として「おともだち広場」などを企画し、被災した親子が元気を取り戻すためにリーダー的存在として活動。また、被災経験の伝承のため、乳幼児期の子育て中の母親が避難する際に、必要なものを集めた「非常持ち出し袋」として有効な「母子防災バッグ」を考案・作製し、このバッグの普及・啓発にも中心となって尽力。

【岩手県】鈴木智子（岩手町保健師） 3歳児健診等が保健所から市町村に移管され、本格的に乳幼児健診が市町村で実施するにあたり、こどもとうまくかかわれない親が、遊びなどを通して関わり方を学ぶ「親子教室」、発達に問題を抱えるなど支援の必要な親子を支援する「療育教室」の企画を立案し、教室運営に取り組み、また保育所への巡回訪問を行い、連携の基盤づくりに取り組んだ。母子のニーズに合わせた子育てボランティア養成講座を実施。育児講演会を開催して母子の育児不安

48名と3団体の皆さまに

軽減に努め、また妊産婦健診交通費助成事業、産後健診および聴覚検査実施助成事業、さらに「5歳児相談」事業の立ち上げに尽力。R2年より保健師長として各関係機関との連携や継続支援の充実を図るなど、多方面から母子保健の向上に尽力。

【秋田県】岩間美樹子（助産師） 病院等勤務の後、H25年より秋田市委

嘱助産師として「こんにちは赤ちゃん訪問事業」、「妊産婦・新生児訪問指導業務」に10年従事。H27年に母乳育児や育児相談などの保健指導を主とした助産院を開設し、地域に根ざして活動を展開。R3年より秋田県児童会館で育児相談を担当するなど、長年の病院での助産業務経験を活かし、地域で必要とされる母乳育児及び育児相談などの依頼を受け、積極的に活動。地域における子育て支援に多大な貢献をされている。

【栃木県】安西未央子（歯科医師） 行政と密に連携し、妊産婦や乳幼児の歯科健診、未就学児とその保護者向け食育教室を積極的に実施。また、日光市内でのへき地歯科巡回診療に積極的に参画し、受診機会に恵まれないへき地地区の母子歯科保健の向上に尽力。栃木県歯科医師会の役員・委員として歯科保健からの食育推進のため、普及啓発パネルを作成し、歯・口腔の育成や食育、ネグレクトについて普及啓発に貢献。H25年～R3年、日本歯科医師会地域保健委員として広報誌や各種イベントにて妊産婦から小児の歯科保健普及に貢献。H30年～R3年、栃木県母子保健運営協議会委員として母子保健施策の充実強化に尽力。

【栃木県】太田由希子（保健師） 県の保健師として、地域療育システム、養育支援連絡票



昨年度「健やか親子21大会」での表彰状の授与

による把握システム及び母子保健従事者の臨床研修体制の構築に寄与。10代の妊娠中絶率低減に取り組んだほか、市町、児相、保健所の保健師連絡会を立ち上げ、虐待事例に対する支援と連携の強化に尽力。H21年から児童相談所で虐待対応を担い、予防的視点を踏まえ、市町要対協および母子保健への支援、医療機関との連携強化「市町における児童相談の手引き」の作成に尽力。H30、とちぎ男女共同参画センター一時保護所では、DV被害母子等の保護、ケア、支援に取り組む。多年、多岐に渡る活動を通じ、母子保健の向上に貢献。

【栃木県】金山富美恵（那須塩原市保健師） H元年の入職当時から、母子健康手帳交付時の全数面接、母推による妊婦訪問や国に先駆けて乳児訪問を行う。また、発達支援が必要なこどもとその保護者に対する継続的な相談支援等を目的に「5歳児発達相談事業」を立ち上げ、年長児巡回相談ほか教育部門と連携充実した体制で継続実施。H27年からは「個別の支援計画」を活用し乳幼児期から青年期まで『縦の連携』による支援と保健・医療・福祉・保育・教育・就労等『横の連携』による支援を一貫して行う『那須塩原市発達支援システム』の構築に尽力。産後ケア事業、産婦健診および産婦健診事後支援事業を事業化

心よりお祝い申し上げます

するなど産婦のメンタルヘルス支援の充実強化に向けても尽力。

【埼玉県】岡村恵子（助産師） 病院や助産院に勤務しながら妊産褥婦の保健指導や新生児看護を行いつつ後進の指導にも取り組む。また地域で子育て中の母親たちに寄り添いたいという強い気持ちから9,000件以上の新生児家庭訪問指導に従事。市の母親学級における講師としても妊娠から出産、子育てと継続して母親に対する心身両面へのサポート、それぞれの段階に応じた支援・情報提供・助言及び保健指導を実施。さらにH25年から5年間市の男女共同参画セミナーにおいて子育て中の親を対象にした講演会の講師を務め、また思春期教育にも講師、電話相談への対応など、地域の母子保健を担う助産師として活躍。

【埼玉県】湯澤珠美（歯科衛生士） 平成元年より朝霞地区（5市1町）の乳幼児を中心に歯科保健指導事業に献身的に務める。H6年からは障がい者、学校保健指導にも邁進、H8年以降各市の歯科保健推進協議会委員を務める。H10年からは富士見市パパママ教室に携わり、コロナ禍も希望者多数の事業を継続させることに貢献。H13年からは、三芳町保育園事業・子育て支援センター事業に企画立案から関わ

り、幼稚園も含み現在もより良い事業になるよう尽力。H14年からはフッ化物塗布事業の実施方法の改善、健診事業同日開催を提案し、3歳までにフッ化物の塗布を受けた者の割合が90%以上と大幅に増加させることにも貢献。

【千葉県】大木和子（助産師） S61年より旭中央病院の助産師として常に自己研鑽に努め、地域の母子健康保持に寄与。参加型産前教育「母親学級」「両親学級」を実施し、参加者のニーズに臨機応変に対応して出産・育児に関する不安を解消。地域周産期母子医療センター、申請時病棟においては、産科病棟助産師とNICU看護師間の情報交換を定期的に行い、疾患のみならず生活背景まで考慮しながら母児の支援に尽力。病棟業務の傍ら関係学会等での研鑽、情報交換を行うなど自身の視野を広め、また助産師長への昇格後は後進の教育・育成にも力を注ぎ、職員、関係者の模範となっている。

【千葉県】加藤睦（助産師） 長年性教育や育児講座、両親教育、孫育て講座などを開催。H14年から千葉県助産師会の電話相談員として、またH20年には松戸市の新生児訪問員や「親子DE広場」の子育て相談員として、長年相談者の気持ちに寄り添ってきた経験から、

子育ては親と子の「育ち合い」、「心配するより、お互いを信じて笑顔で過ごそう」がコンセプト。育児講座、両親学級等多くの講座を開催し、育児に不安を持って参加する母親の気持ちを変化させている。H28年から始めた訪問型産後ケアでもこのコンセプトが生かされ、現在も地域の頼れる助産師として活躍。

【神奈川県】鈴木直（医師） 産婦人科医として母性の健康を守り、長期的展望をもって母子保健、次世代育成にかかる施策に取り組む。特にがんサバイバーの妊娠に関連する「がん・生殖医療」の領域（若いがん患者が、がん治療前に将来子どもを授かる選択肢を検討する新しい学際的な領域）を先導。また、県と連携して県内の患者に対する妊孕性温存療法にかかる公的助成金制度の設立に尽力。全国の患者に対する同様の経済的支援につながる。聖マリアンナ医科大学病院では「患者の受け入れを決して断らない」を実践し、地域の周産期医療に貢献。コロナ禍では、コロナ妊婦に対する先進的な周産期医療の維持にも努める。

【神奈川県】加藤千晶（助産師） H22年度より神奈川県助産師会の理事として、医療施設に勤務する助産師の視点から、周産期医療・母子保健に関する課題に取り組み、その解決・普及に対する活動を実施。また安全対策委員会委員として助産所におけるインシデント・アクシデント事例を詳細検討し、再発防止の

お口の恋人
LOTTE

むし歯のない社会へ。
ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品) (公財)日本学校保健会推薦 (一社)日本学校歯科医会推薦

食品初! 日本歯科医師会推薦商品 **XYLITOL**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずかごへ。

取組みの促進・支援を行う。産婦人科医・小児科医を含む周産期医療施設との協力体制、周産期医療体制としての助産所の役割を検討。リスクマネジメント研修を開催し、助産師の専門性の向上、専門家としての責務と役割に関する啓発を行い、母子保健の向上に尽力。

【富山県】 齋藤幸恵（砺波市母推） H17年より母推として活動。担当地区は少子化が進み、保護者同士が集う機会の少ない地域であり、母親たちの良き相談者として意欲的に活動。H21年より協議会活動の中心的役割を担い、明るく気さくな性格は地域住民のみならず他の母推からも慕われ、運営に尽力。県の母推連絡協議会の役員も務め、市町村協議会の意見を反映させ、県全体の子育て支援環境の発展に貢献。H25年より砺波市環境保健衛生協議会専門部会の1団体として協議会をまとめ上げ、他のボランティア団体との連携を図り、市全体の健康増進に寄与。

【石川県】 前川委甲子（津幡町母推） H16年より母推として活動。保育園等での歯磨き教室のサポート、新米パパママ教室、健診時の託児などに積極的に行いながら母子と関わる。地域での子育て支援に視点を置き、行政と地域をつなぐパイプ役として、母子保健事業に寄与。今年度は特に、小児科医師の子育て講演会を主催し、保護者が集中して受講できるよう託児を行い、中心的存在として運営に尽力。さらに、母推をPRするためエプロンを製

作し、他の母推とともに意欲的に活動するなど、さらなる活躍が期待されている。

【石川県】 安原弘子（輪島市母推） H15年より母推として、赤ちゃんが生まれた家庭への訪問活動「先輩ママのお祝い訪問」を開始。核家族や転入者等が孤立しないように子育て支援サービスを紹介し、身近な相談役となり、乳幼児を持つ母親の育児不安の軽減に積極的に取り組む。市の健診や相談等母子保健事業への協力のほか、子育て支援センターが開始した「子育て広場」の活動にも協力し、コロナ禍でも積極的に活動。6月の歯の衛生週間健康イベントでは、母推のコーナーを設け、食育とむし歯予防についてクイズやゲームを通じて学べるよう取り組んだ。

【福井県】 酒谷富子（小浜市保健推進員） H10年より保健推進員として、家庭と行政とのパイプ役を担い、受け持ち地区の声かけ訪問や子育て教室を長年継続して実施し、乳幼児を育てる母親とのコミュニケーションを積極的に行ってきた。また、母子保健のみならず、生活習慣病健診のお知らせや健康づくりの普及など地域での健康づくりにも貢献。長らく、市の保健推進員協議会の会長、副会長として会の活動をけん引するなど会の運営にも尽力。地域の子育て支援、健康づくりに幅広く貢献。

【福井県】 寺澤由紀子（坂井市母推） H16年より母推として活動。自主活動として布おもちゃづくりに積極的に参加し、手づくりおも

ちゃを通しての親子のふれあいの推進に貢献。H26～27年度は、坂井市母推会の会長として会をまとめ、理事として自主活動においても企画立案など積極的に意見を出し活動が円滑に進むよう尽力。現在も育児相談、乳幼児健診にて積極的に母子へのコミュニケーションを図り、母子が緊張しないよう声かけし、折り紙でつ

くった「コマ」を渡しながらか親子でのふれあい遊びを勧めるなど、地域と行政のパイプ役として親子、他の会員からも信頼も厚い。

【岐阜県】 紺田応子（医師） S61年より長年にわたり小児科医として、予防接種、乳幼児健診（4か月、1歳6か月、3歳児）に従事するなど、乳幼児の疫病予防に従事し、過疎地域の医療を支えてきた。乳幼児健診により身体発育状況、精神障害、言語障害の有無等、疫病の早期発見、早期治療により健康保持に寄与。また、乳幼児予防接種により健康保持に寄与し、各種予防接種事業に協力して、疫病の発症予防及び重症化予防に寄与。保育園の園医や中学校、高校、特別支援学校の学校医を務めるなど、飛騨地域のこどもたちの健康保持に広く貢献。

【岐阜県】 井上泰子（歯科医師） 歯科医師として特に口腔機能獲得期における歯科保健医療の推進および発展に大きく貢献。「0歳からの口腔育成」と題し、歯科医師や歯科衛生士、教育関係者等に対して、出産前後の正しい口腔機能の獲得のために必要な歯科保健指導や食形態・食事量などの食育に取り組むとともに、こどもの舌トレーニングなどの機能獲得訓練を積極的に取り入れた口腔機能獲得の保健指導を率先垂範し、母子の歯科保健の発展に尽力。またネグレクトの問題にも積極的に関与し、地域のこどもたちの健やかな育成に向けた母子保健活動の充実に尽力。市および県歯科医師会母子・学校歯科保健委員会委員、学校歯科医などの歴任を長年続ける。

【愛知県】 黒屋一美（保健師） 保健所、児相等で地域に密着した母子保健活動を献身的に行い、母子保健の発展に寄与。近年は療育相談事業にて、特に長期療養が必要なこどもたちとその家族への相談や、医療的ケアを必要とする親子の支援に尽力。母子保健事業全般のほか、多胎児を育てる親の支援、産後うつ



健やか親子21全国大会ロビーでの展示



全国大会併設の本会議などによる全国集会

病の早期発見と母親への支援体制づくり、産後ケア事業についての研修会実施、児童福祉施設に一時保護中の児に対する性教育の実施、医療的ケア児の災害時個別支援計画作成および体制整備に努める等、多岐にわたり尽力。

【三重県】 上阪伸子 (松阪市保健師) 3歳児健診で要精密検査となった児を上手く医療に繋ぐため、乳幼児健診部会で小児科医や心理士など、多職種との連携により、健診後のフォローアップ体制の強化を図る。また、「実践力up事例検討会」の研修に参加し、困難事例への対応に生かし、保健師の人材育成にも貢献。山間部の複雑かつ多重課題を抱える事例に対しては、関係職種で事例検討会を定期的に開催し、地域の中での見守り体制の充実と途切れない支援に繋がれるような取組を実施。「福祉まるごと相談室」の設置にあたり、関係機関との連携強化に重点を置き、その体制整備において関係者との調整等に貢献。

【滋賀県】 多賀崇 (医師) 小児科専門医ならびに小児血液・がん専門医・指導医として、滋賀県で発症する大多数の小児血液疾患、小児ならびにAYAがん患者に対し、滋賀県下の関連病院と連携し、滋賀医科大学医学部附属病院で30年以上にわたり診療を行い、日本小児がん研究グループの発足時からのメンバーとなり、ほとんどすべての小児がんの臨床試験に参加するなど、小児がん患者の生存率の向上に貢献するとともに、小児血液腫瘍部門の

臨床研究のリーダーとしても活躍。県と協力し、相談医として小児がんに関する相談とイベントを毎月継続して行い、地域のこどもたちの心身の健やかな成長に寄与。貢献大。

【滋賀県】 吉田久代 (助産師) 30年以上にわたる助産師としての勤務経験を強みに、エビデンスをもとに実践できる看護師や助産師の育成に尽

力。また、妊産婦に安心・安全なケアを提供するために、超音波診断技術の習得をはじめ、乳房マッサージ、乳房ケア、メンタルサポート、ケアリングの習得など数多くの知識・技術を学び、日々研鑽を積む。助産師外来においては、病棟での妊産婦の情報を共有することで、ケアの継続性が図れるシステムを構築・運用し、安全な体制づくりに貢献。妊産婦の満足度を第一に考え、スタッフの共感を得ている。県助産師会の発展にも尽力。

【大阪府】 中平千代美 (助産師) 大学病院等での臨床経験と豊富な知識を生かし、未熟児訪問を担当し、引続きこどもの成長発達や母乳哺育等の母子相談支援業務に尽力。丁寧かつ確かな判断から、母親はもちろん他のスタッフや地元自治体からも厚い信頼と高い評価を得、大きな成果をあげた。新生児訪問指導員、母親学級講師も務め、地域における母子支援活動の場を広げており、地域住民からの信望は絶大。H24年になかひら助産院開設後も、これまでの経験を活かし市や地域の病院と連携して子育て支援活動に取り組む。思春期から妊娠、分娩、育児から更年期に至るまで多くの相談に応じ、支援者として広く社会に貢献。

【兵庫県】 吉村信恵 (保健師) 明石健康福祉事務所勤務時は、明石市の中核市移行に向け、兵庫県が展開する養育支援ネットに係る集会や事例検討を通して母子保健に携わる市保健師の人材育成を実施。相生市に派遣された際

は、子育てに関する支援に対応した「子育て応援ガイドブック」を発行し、市内の子育て支援の情報や相談窓口を紹介。また、子育て応援アプリ「Aioiいくなび」を導入しSNSを活用した支援を開始。子育て世代包括支援センター立ち上げ直後に、妊婦への保健師全数面接等により早期介入し養育支援ネットにつなげる等、母子保健、子育て支援に広く尽力。

【和歌山県】 田中七生 (高野町保健師) 30年以上の長きにわたり関係機関との連携を取りながら地域で子育てする親子に寄り添い、母子保健活動の向上・推進に尽力。H8年から2歳6ヵ月健康相談を地域の中で先駆け実施、H9年には発達相談を導入し、親子の支援等にも積極的に取り組み、健康診査に対するフォロー体制を充実させる土台を形成。H13年から親子教室を導入し、子育て支援を町独自の体制として構築した。H29年からは福祉・教育機関と連携をとり、子育て世代包括支援センター一長を務めている。強い責任感で業務に取り組み、地域の母親、各市町の保健師から信頼・尊敬され、母子保健活動に多大に貢献。

【和歌山県】 井谷満守美 (岩出市母推) H6年から岩出市母推として活動し、乳幼児健康診査時や親子教室等の母子保健事業に積極的に協力するとともに、地域における子育て相談などに取り組む。H30年から岩出市母推会長に就任、組織のさらなる強化を図ると共に母推の資質向上を目指している。また、和歌山県母子の健康づくり運動協議会那賀支部長として、県や支部の活動運営に貢献。特にR元年度、那賀支部主催により、県内各地で活躍する母推等400人が参加した「母子保健・健全育成住民会議」を成功に導いた功績は大きい。

【和歌山県】 関三恵 (田辺市母推) H17年以来、本宮支部支部長、副支部長として活動。R3年より副会長。母推として市内でも特に少子高齢化が進んでいる地域で活動、子育て世

帯の孤立予防、育児不安の軽減に尽力。家庭訪問や相談、乳幼児健診のサポートなど、行政と地域、および子育て世帯間の橋渡し役を担う。地域のボランティア活動も積極的に参加し、妊娠期から学童期の幅広い年代の子育て支援活動を行っている。また母推、ボランティア活動等での経歴を生かし、田辺市ひきこもり検討委員会の委員を担うなど、地域で幅広く活躍。

【鳥取県】西江順子(助産師) S59年から助産師として一貫して周産期・母子保健の分野に従事。H3年に助産院開業後は家庭的で満足のお産を目指して母子に寄り添ったケアを提供。安全な出産のために高次の病院とも連携を取り、鳥取県周産期医療協議会の委員も務める。H13年より助産師2名とともに児童・生徒を対象とした性教育活動を開始。H16年に発足した県助産師会「いのちの大切さ伝え隊」の礎となり、現在も思春期世代を中心に性と生殖の健康と権利を啓蒙する「いのちと性の出前教室」を精力的に展開。H28年度より6年間、鳥取県助産師会会長。R4年度より同会子育て・女性健康支援センター長。

【岡山県】田中律子(岡山市愛育委員) H11年以来、愛育委員として熱心に活動し、細やかな活動で住民の信頼も厚い。また、岡山市愛育委員協議会理事、中央地域愛育委員連絡会副会長を務める。乳幼児やその保護者に対する子育て支援に特に力を入れており、おやこクラブや子育て広場への積極的な支援、こんにちは赤ちゃんボランティアなどを率先して行う。また、中学校での「いのちを育む授業」では命の大切さを伝える活動を継続している。これらの熱心で細やかな活動は学区住民から高く評価され今後一層の活躍が期待される。

【山口県】橘実千代(長門市母推) H6年から母推として活動。長年にわたる地道な訪問活動を通じて地域の母親の身近な相談役とな

り育児不安の解消、健診や予防接種の声掛け、児童虐待の早期発見など行政のパイプ役として地域の母子保健の向上に寄与。日置地区において、年1回、母親や子ども同士の交流を図る子育て輪づくり活動を開催し、子育て支援センターや食生活改善推進協議会とも連携し、季節に合わせた創作活動や体操、手づくりおやつの実習・配布等を行う。市のちびっこ大運動会では、母推をまとめ準備から運営まで担う。H22年から9年間、長門市母推協議会会長を務めるなど、協議会の発展にも貢献。

【香川県】高畠充子(丸亀市母推) H21年より活動。妊婦さん等にとって地域の相談役となり、他の推進員の模範になっている。特に、妊娠後期の妊婦や産婦や転入してきた家庭の乳幼児を中心に家庭訪問を行い、身近な地域の子育て情報や市の母子保健事業などの情報提供、必要に応じて市の担当者に繋ぐなど連携した活動を行っている。月に1回の子育て広場に従事し、愛育班員や保健部会の身体計測や声掛けを行う。朗らかな人柄と強い責任感から、市職員、地域住民から人望も厚い。

【愛媛県】渡森昭子(松野町保健師) H7年松野町に入職、地域に根差した母子の健康管理に努めた。母子のカルテを整備し管理を一元化、また発達に遅れを持つ乳幼児と親を対象にした「親子療育教室」や「親の会」の運営、H9年度母子保健計画、H16年度次世代育成支援対策地域行動計画策定にリーダー的役割を担う。R3年度子育て世代包括支援センターを設置、R5年度ペアレントメンターカフェの立ち上げに尽力。さらには臨床発達心理士の資格を取得するなど自己研鑽にも努め、「育てにくさ」や「見へのかかわり方」にも着目した指導を行い、母親の育児不安の軽減に努めるなど、母子保健、子育て支援に広く貢献。

【愛媛県】権田恭子(西予市保健師) H4年旧宇和町に奉職。丁寧な訪問、相談活動、要フォ

ロー児の育児相談、療育への支援に努め医療・福祉・教育分野との連携を図る。また児相と連携し就学までの障がい児の支援の場として「親子療育事業」を開始し町外の親子も受け入れる。地域子育て支援センターが行う「療育事業」に参画し、市の母子保健事業とつなぐ視点で「親子療育交流会」「相談支援ファイル」を保護者や市の福祉分野、学校養護教諭に普及することに尽力。また、児童対象に生活習慣病予防の取組を実施。中学生とコラボし「たばこの啓発劇～たばこってなーに～」を健康づくりひろばで実施し防煙教育に貢献。関係分野と積極的に連携しながら母子保健を広い視野で積極的に推進した功績は大きい。

【佐賀県】松隈愛子(鳥栖市母推) H18年度より母推活動。17年間にわたり家庭訪問や健診・子育て教室等を通して地域での母子保健の向上に取り組む。家庭訪問では、母親たちの相談に応じたり、乳児健診や育児教室等のお知らせを行い、母親への声掛けをすることで育児孤立を防いでいる。持ち前の温かく丁寧な対応で母親たちから親しまれている。H20年度以降、鳥栖市母子保健推進協議会の地区理事として活動、会の運営に大いに尽力。食生活改善推進員として、食育にも取り組むなど、地域の親子の健康づくりに貢献。

【佐賀県】宮崎靖子(唐津市母推) H9年度から旧鎮西町母推として活動。以降26年間従事。H26年度から隣地区と合わせ支部理事を、R2年度から市協議会副支部長として、支部長を補佐し会員をまとめる。H23年度から赤ちゃん訪問で手渡すプレゼントづくりを隣地区と合同で熱心に取り組んでいる。赤ちゃん訪問や健診、育児相談等を通して、地域の身近な相談役として母親たちの相談にのり、支援の必要な人と行政との重要なパイプ役を担う。温厚で明るい人柄で皆の信頼を得るとともに、各種研修会へ積極的に参加し自己研鑽にも努



歯磨きをがんばった児を表彰する母推さん

め、母推のリーダーとして活躍。

【長崎県】 山川むつ子（平戸市助産師） H22年以降、市外の産婦人科医療機関に勤務しながら、市の委託助産師として家庭訪問指導を実施。H24年、市内有志助産師による「平戸さんばの会」の立ち上げに参加し、市の母子保健事業の一部を事業受託し活動。R3年からは、同会代表として市の家庭訪問事業指導員を中心とした受託事業に取り組む傍ら、在宅助産師としての産後ケア事業にも尽力。さらにH24年から続けている母推としても活動するなど、地域における妊娠期から子育て期の母子支援に献身的に活動されている。

【長崎県】 但馬ひとみ（南島原市母推） H4年以降通算27年余、母推として活動。H18年、8町合併の大変な中、母推の地域に根付いた継続的な活動を示唆し、市の母子保健事業の考察に寄与。地道な家庭訪問の実践から、母子相談や訪問・健診等も積極的に協力し母子保健への功績が多大。特に、子育て家庭への訪問や相談に熱心に取り組み、子どもの成長過程の状況を踏まえた的確な声掛けの他、行政とのパイプ役として尽力。他の母推からの信頼が厚く、その姿勢は後に続く母推の手本となっている。地域の信望も厚い。

【宮崎県】 熊谷菜穂子（延岡市保健師） S58年入庁。多くの期間母子保健事業等に従事し、発育や発達に問題を抱える児への支援や子育てに不安を抱える保護者に寄り添い、適

切な保健指導を行うとともに支援への繋ぎを行う。H31年に市が開設した「子育て世代包括支援センター」の開設担当として前年度から尽力。こども家庭課在籍中の虐待への対応や予防の視点やスキル、ノウハウを生かし、他の保健師に教授するなど、保健師のスキルアップにも寄与。退職後も継続して健診に従事し、必要

に応じて地区担当保健師につなぐなど、切れ目ない支援に努め、市の母子保健サービスの向上に寄与。

【沖縄県】 瑞慶覧博子（うるま市母推） 30年余にわたり、乳幼児健診、2歳児歯科検診、赤ちゃん訪問、乳幼児健診未受診者への受診勧奨など市の母子保健事業に積極的に協力、健康フェスティバル、地域の子ども家庭への支援会議にも参加協力する等、母子保健の啓発にも協力。また積極的に研修に参加するなど自己研鑽にも努めるとともに、日頃の活動を通して培った豊富な経験をリーダーとして後輩推進員へアドバイスを積極的に行っている。会長等役員を歴任するなど会のまとめ役でもあり、明るく落ち着いた人柄は地域住民からも親しまれ、信頼も厚い。

【沖縄県】 稲福英子（浦添市母推） H18年度から母推として乳幼児健診、未受診者訪問、ベビースクールなど母子保健事業に尽力。母子保健事業を行っていく上での課題や改善点を担当者へ伝え、事業内容の改善にも努めた。母推の自主的な活動として保育所等で手づくりの紙芝居や指人形を用いてむし歯予防の啓発活動も行うほか、認可外保育所で指人形劇を実施し、地域との交流を図っている。ボランティア連絡協議会の事業にも積極的に参加し、ワンコインチャリティー活動にも参加。H24年度から27年度までは「浦添市母子保健推進員連絡会」会長。

【千葉市】 村田啓子（地域保健推進員） 地域保健推進員として22年にわたり地域に貢献。初回委嘱時より地区社協が実施する子育てサロンの運営に関わり、H27年4月からは食生活改善推進員としても活躍。地区担当保健師と密に連絡をとり、生後2か月児のいる家庭への訪問に熱心に取り組む。また、子育て世帯に子育てサロンの参加を呼びかけ保護者同士が交流できるように心がけたり、食生活改善推進員としても積極的に地域活動を行っている。H20年に千葉市保健所長感謝状、H26年に千葉市長感謝状を受けられている。

【浜松市】 濱角由美子（助産師） すずらん助産院を開業し、市の母子保健事業（母子健康手帳交付、こんにちは赤ちゃん訪問（1万件余実施）等）、養育支援訪問員、子育て支援広場、妊娠SOS相談事業、産後ケア事業、企業主催の両親学級、浜松こども館親子ベビーマッサージ、静岡県助産師会主催「いのちの出前講座」の運営・講話等に従事する傍ら大学（助産学科）の実習指導要員として専門職の育成に携わる。総合周産期母子医療センターで培った多くの分娩症例と外来・病棟における保健指導の経験を活かし、地域で妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援に幅広く取り組んできた。活動にあたり妊娠・出産・育児に関する知識の提供と共に家族支援の視点を大切にしている。

【神戸市】 総毛薫（助産師） 病院に勤務する中で地域における母子支援の必要性を感じ、H19年より2週間健診、電話訪問、育児訪問等を立ち上げた。H28年から副院長として、上記に加え妊婦保健指導外来、母乳外来、子育てサークルの開催等を支援。R2年から神戸市の産後ケア委託事業を開始。ハイリスク妊婦等、切れ目ない支援のため、妊娠期から養育支援ネットに情報をつなぎ、さらに継続して小児科、産科でのサポートも行う。また市

立小学校での「いのちのふれあい授業」を受託し実施するほか、医師とチームをつくり性教育を実施するなど、広く母子保健に貢献。

【船橋市】野口みち子（助産師） 病院在職中2年間、JICA海外協力隊員として北アフリカ・チュニジア共和国に派遣された。劣悪な環境下で母乳育児の大切さを痛感し、帰国後から一貫して母乳育児を推奨し、乳房ケア技術の習得に努めた。H11年4月からは船橋市の母子保健事業、妊産婦申請時訪問、パパママ教室等に携わり、特に4か月児健康相談に来所した母親の母乳育児相談に積極的に関わり、適切な助言を行った。H31年4月には分娩を伴わない施設助産院「野口みち子助産院」院長として、昼夜を問わず寄せられる乳房トラブルの相談に対応、地域の母子が頼れる存在。

【松山市】和氣幸枝（母推） 「母子保健推進員養成講座」を受講後、松山市母子保健推進協議会に入会。毎月の定例会にて熱心に研修を受講するとともに、看護師としての知識を生かしながら、こんには赤ちゃん訪問事業の訪問員や幼児健診での事故予防対策等に従事。訪問では、育児に関する不安や悩みの傾聴・相談、子育て支援に関する情報提供、心身の様子や養育環境の把握に努め、必要時には担当保健師につなぐ。H30年度からR元年度まで協議会の監査役、R2年度からは副会長として会長を支え協議会の発展に寄与。会員からの信頼も厚い。子育て応援として地域のボランティア活動を幅広く展開。

【那覇市】具志初枝（母推） H8年から母推として活動。乳幼児健診未受診者訪問等各種母子保健事業への協力のほか、会の自主的な活動として、3歳児健診の待ち時間を利用してバランスのよい食生活と早寝早起きの生活を推進するための食育活動、小中学校での思春期教室では、保健師と連携し妊婦体験や沐浴人形での抱っこ体験、胎児人形を通して生

命の尊さや喫煙が胎児に及ぼす影響などについて教える活動を行う。また、市のこども発達支援センターや子育て支援センター、ダウン症児の親子のつどい等で託児のボランティア等幅広く活動。地域の母子保健の推進に大きく貢献している。H29年には県知事表彰受賞。

【中央推薦】羽根司人（歯科医師）

H15年度より三重県歯科医師会理事。H23年度より日本歯科医師会地域保健委員会委員、委員長、理事（地域保健担当）等を歴任。この間、R2年に厚労省委託事業の医療従事者向け虐待初期対応研修のコンテンツ作成参加。R3年には日本歯科医師会ホームページ掲載「健やかな子育て支援のチェックリスト」の作成参加。また同年、児童虐待と歯科の関わりについて日本歯科医療管理学会賞を受賞。R5年にも日本歯科医師会ホームページに掲載のすべての世代を対象とした「歯科からの食育・食支援」の作成参加するなど、幅広く貢献。母子保健推進会議の機関紙「親子保健」の『8020の里づくり』コーナーの執筆も担当。

団体の部

【大阪府】一般社団法人大阪府助産師会（代表・平山三千代） M21年設立の「大阪産婆組合」を起源とし、S25年6月に社団法人として設立認可された。妊娠から出産・育児期まで継続的な母子ケアを提供する助産師職の団体として、行政とも連携協力して妊産婦健診や母子訪問事業に取り組み、母子保健の向上に多大な貢献。不妊・子育て等に関する電話相談、思春期e-mail相談、性教育出前講座等、女性のライフサイクルに沿った健康に関する支援活動を展開。また、産褥期のケアを目的とした産後ケア事業運営のほか、地域の子育て支援の場「おひさまサンサン広場」の開設等、母子と家



母推県協議会研修会で日頃の活動を披露

族の健全育成に大きく尽力。

【岡山県】玉野市奥玉地区愛育委員会（代表・藤原弘子） S41年発足。乳幼児健診・育児相談等の受診勧奨、健診場面の禁煙啓発・がん検診受診啓発、高齢者への声掛け訪問・老人ホームへの傾聴訪問等、母子保健・高齢者支援を中心とした住民の健康増進のための活動を行う。小学校のこども楽級の支援や赤ちゃんひろば、中学生と赤ちゃんのふれあい体験の協力等を実施。また、民生委員や主任児童委員と共に日頃から地区の子ども達の安心安全のため、子育て中の母子が孤立しないよう見守り・声掛けを積極的、継続的に行い、必要に応じて行政の支援につなぐ等、住民と行政とのパイプ役を担っている。

【高槻市】高槻地区周産期地域連携の会（代表・大阪府助産師会 吉田道子） 本団体は健やか親子21に掲げられた「すべての子どもが健やかに育つ社会」の取り組みの一つである「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」を推進するために発足した自主的な会。発足8年目を迎え、定期的な会合は開催40回を超え、広く地域の診療所等のスタッフも含めた学習会、研修会等を策定・開催している。「妊産婦の孤立」「母子保健の地域包括ケア」等の課題・テーマを取り上げ、実践で活用できるよう参加者の意見交換、交流会を実施。母子保健の課題について共通認識を深め、スタッフのスキル向上や、技術の標準化に貢献。

令和5年度「8020の里賞（ロツテ賞）」受賞活動決まる！

本会議では、口腔をはじめとする乳幼児期からの健康づくりの重要性の啓発と、地域における組織的な活動の支援を目的に、平成21年度「健やか親子21—8020の里賞（ロツテ賞）」を創設し、これまで15年間で212の自治体・団体を表彰してきている。

本年度の審査会を9月19日（火）に開催したので、結果を報告する。

【審査委員】

委員長 山本秀樹（公益社団法人日本歯科医師会常務理事）

委員 長 優子（公益社団法人日本歯科衛生士会理事）・清水和正（株式会社ロツテコーポレートコミュニケーション部渉外課課長代理）、佐藤拓代（本会議会長）

【審査基準】

- (1)地域の課題やニーズを汲んだテーマの活動であり、より多くの対象者に啓発することに努めていること。
- (2)行政、専門職、関係機関との連携が密であり活動の発展が期待できること。
- (3)複合的な取組、または活動に創意工夫があり、対象者の関心を引き、行動変容につながることに努めていること。
- (4)地域の特産を取り入れるなど、地域の活性化や新たな連携な構築に努めていること。

<優秀賞>

・土浦市食生活改善推進員協議会（茨城県）お母さん（推進員）、子ども2人（人形）の3人が「早寝早起き朝ごはん」の大切さについて人形劇で、またフードモデルや料理カードを使ってクイズ形式（双方向・参加型）で食材の働きなども楽しく学べるように工夫して保育園等で上演。

令和5年度「健やか親子21—8020の里賞（ロツテ賞）」各賞受賞団体

	団体名	媒体名	媒体種類
優秀賞	土浦市食生活改善推進員協議会 こどもグループ（食育推進グループ）	早寝早起き朝ごはん人形劇	寸劇
優秀賞	茂原市役所（保健センター）	禁煙および歯科保健の啓発ティッシュ	手づくり教材
佳作賞	北谷町食生活改善推進協議会	紙芝居・はてなBOX	エプロンシアター・手づくり教材
奨励賞	洲本市健康福祉部健康増進課	子どもの健康的な生活習慣を身につけるための食育支援	生活実態がわかる食事記録表・食材展示
奨励賞	嘉島町食生活改善推進員協議会	食育教室	エプロンシアター・手づくり教材



沖縄県北谷町の食育活動 箱の中には？



茨城県土浦市食生活改善推進協議会の「早寝早起き朝ごはん」と食育を合わせた活動

・茂原市保健センター（千葉県）世界禁煙デーに合わせ、歯科保健に関わる啓発用ティッシュペーパー（写真右）を作成。たばこの自販機をイメージ



千葉県茂原市の禁煙と歯科保健啓発を組み合わせた啓発活動



した媒体を廃材の段ボールで作成しレバーを押すと出てくるようにした。ティッシュペーパーのパッケージには市のオリジナル歯科保健啓発動画のQRコードも記載。

<佳作賞>

・北谷町食生活改善推進協議会（沖縄県）本島中部の同町は米軍基地に隣接することもあり、アメリカの食文化が定着していることから、かつお節の出汁を使った郷土料理「かちゅー湯」を通して食育活動を行った。

<奨励賞>

- ・洲本市健康福祉部健康増進課（兵庫県）健康的な生活習慣を身につけるための食事記録表の作成と各月齢年齢ごとのフードモデルを作成し展示。むし歯予防や食の重要性、フツ化物塗布の効果等の啓発と推進。
- ・嘉島町食生活改善推進員協議会（熊本県）エプロンシアターと手づくり教材により、食材ごとの栄養素やその働き、朝ごはんの大切さなどを啓発。

紙上セミナー
SEMINAR
8020の星づくり

乳幼児の歯のおさらい

歯の形成

歯および歯を支える歯周組織は、胎児の早い段階からその形成が始まります。乳歯の発生は概ね胎生6週から8週に始まります。大唾液腺の発生もその頃です。永久歯の発生は胎生20週くらいから始まります。

歯の石灰化の時期は、乳歯では胎生14週に乳中切歯から始まり、最も遅い第2乳臼歯でも19週には始まります。萌出は乳中切歯が生後10か月、歯根完成が生後18か月頃。最も遅い上顎第2乳臼歯は生後29か月前後、歯根完成が生後3年くらいです。

これに対して、永久歯の石灰化の開始は第1大臼歯が最も早く、出生時に始まり、萌出までに6~7年、歯根の完成までには10年近くを要します。

このことから、乳歯は発生から萌出、歯の完成までが永久歯に比べて非常に早



いことがわかります。また、永久歯に比べて華奢で柔らかく、すり減りやすいです。

幼児の咀嚼や歯

ぎしりは顎骨等の成長に重要な役割を果たします。2歳児、3歳児がする歯ぎしりは、寝ているときに体がぐるぐる動き回ると同様に、成長には大切な行動であり、大人の歯ぎしりとは違います。乳歯の時期にある程度の噛み応えのある食材を与えることは大切なことであり、逆に歯ぎしりをしない乳幼児では、かみ合わせ等に問題がある場合があります。3歳過ぎた子どものあごの骨のレントゲンでは智歯(親知らず)を除く永久歯胚のすべてがひしめき合っている状態で確認できます。

歯の再石灰化と脱灰

歯の成長に必要な栄養素は、カルシウム、リン、ビタミンA、ビタミンB、ビタミンD。カルシウムとリンは歯の高組織を形成するハイドロキシアパタイトの結晶を作るのに不可欠です。

萌出後の歯のカルシウム代謝とも言える作用は、歯の再石灰化です。口腔内に現れた歯の表面が酸などによって脱灰されると、唾液のカルシウム分などがそれを修復するように歯に沈着する働きをします。

炭酸水などの多飲は歯が溶解するpH5.5を下回ったpHが長く歯に作用してしまうことから、歯の表面エナメル質が溶け出してしまう脱灰(酸蝕症)を起こす



図1 先天歯と炎症
口腔病理基本画像アトラスより



図2 先天歯と舌の傷
口腔病理基本画像アトラスより

ことがあります(このことで炭酸飲料が有害というわけではありません。酸性度の強いものを過剰にとった場合等での現象です)。

口腔細菌の出す酸で歯が一方向的に溶解され、再修復が間に合わない場合、肉眼でむし歯として確認されます。歯ブラシでは歯に付着した物質、特に、細菌のえさになる食べ残しを取り除き、口をゆすいだ後は、唾液の緩衝作用(口の中のpHを安定させる)が働くまで、飲食は避けることが望ましいです。酸性飲料等を飲んだ後も同様です。

歯の成長の中で見られるケース

乳歯は下顎乳中切歯が生後6~8か月頃に萌出し始めますが、それ以前に萌出する歯がみられる場合があります。出生時に既に生えている歯、生後1か月までに生えている歯を先天歯、先天性歯、出生歯、新生歯などといいます。俗に、魔歯、

鬼歯などともいわれます。下顎の乳中切歯であったり、過剰歯（本来の歯数より余分に出てくる歯）であったりします。

自然に脱落したり、壊れたりすることも多く、抜けた場合にその部分の乳歯は失われたままの場合もありますが、通常、永久歯は揃います。授乳時に乳首を傷つけたり、感染により歯ぐきや舌粘膜に炎症や潰瘍をつくってしまう場合（※図1、図2）もあり、その場合には受診を要します。

歯数の異常。無歯症といわれる歯が完全に発生しない疾患がありますが、私は拝見したことはありません。乳歯の先天性欠如は永久歯ほど多くはなく稀です。現れやすいのは前から2番目の乳側切歯で、下顎に多く、後継永久歯も欠如して

いる場合もあり、その確率は5割程度といわれています。

永久歯の先天欠如は1割弱の方に見られ、前から2番目の側切歯と5番目の第二小臼歯に多くみられます。この場合、同部位の乳歯が残存して、成人になっても歯列の一員として働き続ける場合があります、これを代用永久歯といいます。

乳前歯の2本が癒合して1本になっている場合（癒合歯）（※図3）を良く見受けられます。下顎に多く、永久歯の歯数が少ない場合もあります。癒合歯は自然に永久歯と交代することが難しい場合があるため、交換期になったら受診をお勧めします。

これまで書いてきたように、胎児の早い段階から歯の発生ははじまり、授乳期



図3 癒合歯
口腔病理基本画像アトラスより

から離乳、そして咀嚼を必要とする段階まで、歯と口の変化だけをみてもめまぐるしいものがあります。1日1回はお子さんのお口を見るように心がけていただきたいと思います。

公益社団法人 日本歯科医師会

地域保健委員会委員 阿部 有孝

8020 ひとくちメモ

唾液腺は3大唾液腺といわれる、耳下腺、顎下腺、舌下腺がよく知られていますが、他にも、小唾液腺といわれるものがあります。唇の粘膜にある口唇腺、頬粘膜にある頬腺、臼歯腺、口蓋粘膜の口蓋腺、舌の前舌腺（ランダン・ヌーン腺）、後舌腺、エブネル腺（有郭乳頭付近の腺）です。

いずれにしても口の中では絶えず、いろいろな部位から唾液が出ていることとなります。生後5か月を過ぎると唾液の分泌量も多くなります。これは離乳の準備のためと考えられ（このころは、唾液を飲み込むことが下手なため、よだれが多い）、1歳児では1日100～150mlくらいの分泌量といわれています。

乳幼児の唾液のこと

成人では、睡眠時の唾液量が毎分0.1mlくらい、食事中が毎分4mlくらいとする実験結果があります。ただ、検査法や1日量の推計方法が、睡眠時間、食事時間や安静時等の考慮の仕方によって大きく数値が異なり、1～1.5lとするものからその半分くらいとするものなどがあります。

2019年、イグノーベル化学賞を受賞された明海大学口腔小児科学の渡部茂教授が、1995年に「5歳児の1日の唾液生産量の推定」を発表しました。

自分の子どもを含む幼稚園児30人に、ごはんやりんご、クッキーなどの6種類の食品をかんでもらい、かんで紙コップに吐き出す実験を行い、分泌される唾液量を測定。子どもたちの1日の食事時

間を調べて食事の量を算定し、睡眠時や安静時の量を足して、1日の唾液量を500mlと推定しました。

渡部教授が算定した大人の1日の唾液量が570mlと推定されたことから、「小さい子は唾液が多いイメージが強いが、唾液腺も口の表面積も小さく、実際は大人より少ない」との結論を導きました。

唾液の量は尿と同じくらい多いといわれてきました。むし歯予防や摂食・嚥下、消化に至るまで、唾液の果たす役割は大きく、食べ物が触れる最初の消化液でもあります。

子どもの唾液について少しでも考えていただけたら幸いです。

令和5年度 妊産婦そして子育て世代に寄り添い支援するために ～ニューノーマル時代の寄り添い支援の在り方セミナー～

妊娠期から切れ目なく、すべての親子を支えていこうと全国の市区町村では、地域特性を生かしたさまざまな工夫がなされるとともに、次年度からの設置が努力義務とされている「こども家庭センター」の準備が進められています。

対象時期の方々は、生活が一変するとともに心身ともに疲労を溜めやすく、精神的に不安定になりやすい時期でもあり、また、周囲の人に頼らず一人で抱え込む人も多いたとも言われます。そのような時期の方々の心を開き信頼関係を構築し、伴走型の支援をするために、改めて理論で学び、自ら心の変化を体感し、支援者として寄り添うためのポイントを学ぶセミナーを企画しました。

本セミナーは、これまで長年実施してきた「子育て世代支援者養成セミナー」を、コロナ禍を経た現在の家族を見据え、すべての親子を切れ目なく支援するために、再構築しました。寄り添い支援には、理論の理解と、技術を体感しながら習得することが必要です。今年度は、講義編

はオンラインで、演習編(講義も少しあり)は対面で行うハイブリッド型で行います。演習編の受講には事前にオンラインでの

講義編の受講が必須となります。関係性の構築、寄り添い支援について、ご自身で体感しながら学んでみませんか。

講義編・オンライン(12/1～12/8を予定)

「最近の妊娠・出産・子育てと寄り添い支援」、「エンパワーメントとは」「構成的グループエンカウンターの効果的な活用法」など。

演習編・対面(12/15(金)・12/16(土) 戸山サンライズ:東京都新宿区)

「最近の母子保健を取り巻く状況」、「寄り添い積極的傾聴スキルとしてのピアカウンセリング」、「コ・カウンセリングの実習及び振り返り」、「小集団に寄り添うピアカウンセリング」、「ピアカフェ～ニューノーマルな時代の妊産婦および子育て世代を支えるために寄り添う支援をするためには～」(実践報告2事例含む)

コースリーダー 高村寿子(自治医科大学名誉教授)

プログラム等詳細、お申し込みは、本会議ホームページをご覧ください。

参加申し込みはお済みですか?「健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)」

期 日 11月9日(木)～10日(金)

会 場 栃木県総合文化センター

内 容 式典・特別講演・シンポジウム・併設集会(3集会)など

「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」11月9日(木)14:50～
すべての方(被表彰者および代理の方含む)は、本大会の特設サイトから

出席の申し込みが必要です。「栃木県健やか親子21全国大会」と検索、または下記URLからお願いします。

<https://www.shimotsuke.co.jp/list/select/sukoyaka>

ご不明なことがございましたら、本会議までお問い合わせください。

03-3267-0690 / bosui@bosui.or.jp

編集帖

本ページでご案内しているセミナーは平成15年度から実施してきた「子育て世代支援者養成セミナー」(平成26年度までは「子育てピア支援者養成セミナー」)を全面改訂したもののだが、本セミナーもコロナ禍で1度だけオンラインで実施したことがある。1回のセミナーで734名の方が受講され、このテーマに対する関心の高さを示す結果となったが同時に、オンライン研修の限界を知ることとなった。講義には有効なオンラインだが、演

習では、本会議スタッフがモデルとなり実践するなど工夫をしたが、セミナーの核心部分である、そのときどう感じるか、言葉かけによりどう変化していくかなどを感じていただくには難しさがあった。

コースリーダーで自治医大の高村寿子名誉教授、日本助産師会高田昌代会長にご指導を仰ぎ4年ぶりに再開する本セミナー、受講された方が自身で感じた心の動きを日々の事業にどのように生かしていけるか、後の感想が楽しめた。(Y)



発行:公益社団法人 母子保健推進会議
発行人:原澤 勇 編集人:鎌溝和子
協力:全国母子保健推進員等連絡協議会

東京都新宿区市谷田町 1-10
プライム市ヶ谷ビル(〒162-0843)
TEL.03-3267-0690 FAX.03-3267-0630
Eメール bosui@bosui.or.jp
URL <http://www.bosui.or.jp>

年間購読料 2,640円(税別込み)
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320円(税別込み)
郵便振替口座 00120-9-612578